

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告
(交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

資料2
平成30年度第1回逗子市まち・ひと・しごと
創生総合戦略等推進会議
2018年(平成30年)8月1日

No	① 交付対象事業の名称	② 総合戦略における位置付け	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値			⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑧ 事業実施から得られたノウハウ等
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値 (三浦半島4市1町)	実績値 (逗子市)	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
1	三浦半島魅力最大化プロジェクト 推進事業 (三浦半島DMO連携事業)	基本目標2「逗子市への新しい人の流れをつくる」 数値目標「5年間の転入超過数が累計で1,000人になっている。」	3,155,936	指標①	三浦半島4市1町における入込観光客数	3,850	万人	平成30年3月	未確定	97.7万人	地方創生に非常に効果的であった	総合戦略のKPI達成に有効であった	事業の継続	交流人口の増加に効果的であるため。	別添のとおり
指標②	三浦半島4市1町における社会増減	-780	人	平成30年3月	-566人	65人									
指標③	各種イベント参加者数	53,000	人	平成30年3月	124,945人	26,797人									
指標④															
指標⑤															

■表の見方

- ⑤「本事業終了後における実績値」 <事業効果> 選択肢
- ・地方創生に非常に効果的であった (指標が目標値を上回った場合)
 - ・地方創生に相当程度効果があった (目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した場合)
 - ・地方創生に効果があった (目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善したなどの場合)
 - ・地方創生に対して効果がなかった (実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなどの場合)

- ⑦「実績値を踏まえた事業の今後について」 <今後の方針> 選択肢
- ・追加等更に発展させる (事業が効果的であったことから取組みの追加等さらに発展させる)
 - ・事業内容の見直し(改善) (事業内容の見直しを行う(または、行った。))
 - ・事業の継続 (特に見直しをせず事業を継続する)
 - ・事業の中止 (継続的な事業実施を予定していたが中止した)
 - ・予定通り事業終了 (当初予定通り事業を終了した)

■確認いただく内容

- ⑥「外部有識者からの評価」 <事業の評価> 選択肢
- ・総合戦略のKPI達成に有効であった
 - ・総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

<外部有識者からの意見>
記載内容例: 事業の良かった点が何か 等
総合戦略において当該事業が位置付けられている具体的施策に関するKPIに直接的効果を上げる要因となったことを記載。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	ファミリー層に訴求するイベント		2020東京五輪に向けたヨット乗船体験
	ワッショイ!ずしかいがんサマーフェスティバル	NIGHT WAVE～光の波プロジェクト	ヨット体験事業
担当課	経済観光課		文化スポーツ課
実績	平成29年7月21日～8月4日のうち8日間実施、参加者数1,582人	平成29年10月7日～9日の3日間実施、来場者数25,000人	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨット乗船体験（新規）4回実施、のべ72人参加（昨年度まで実施なし） ・ウインドサーフィン教室7回実施、のべ89人参加（11人増加） ・ヨット教室6回実施（3回増加）、のべ54人参加（28人増加） ・セーリング競技の普及啓発用チラシ2種の作成及び配布（全戸26,250部×2回）
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企画 ・地域団体との連携（商工会、商店街、商工業者、青年会議所、マリンスポーツ団体等） ・他イベントとの連携（ワンコインスタンプラリー、子どもフェスティバル等） ・周知 ・会場設営 ・運営 ・警備 等 		<ul style="list-style-type: none"> ・企画 ・地域団体との連携（マリンスポーツ団体、事業者等） ・周知
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・秋冬の海岸活用（トップシーズン以外にも海岸に観光客を呼び込む仕掛け）として、NIGHT WAVEという新たなプロジェクトを実践し、閑散期の夜間においても海の魅力を引き出し、一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。 ・人がいない閑散期における夜の海岸に、芸術性、景観、インスタ映え等の付加価値を与えることで話題性となり、SNSで拡散する手法が効果的であった。 ・逗子海岸を逗子の最大の魅力として発展させていくという目的を共有し、実行委員会形式において、アーティストやマリンスポーツ関係者、商工業者、漁業関係者等がそれぞれ得意とする分野で、「逗子らしいビーチ」を市内外にアピールするという手法は、まさに観光による地域づくりの実践となった。 ・記録としては、映像や写真、実施報告書として残している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピックへの機運を高めるため、従来から実施しているウインドサーフィン教室及びヨット教室（特にジュニアを対象とした実施）の回数を増やし、大幅な参加者の増員に繋がった。事業の実施により、セーリング競技への意識が高まり、平成30年度に県が主催するセーリング事業への市立小学校の参加に繋がっている。 ・また、新たにヨット乗船体験を実施したところ、親子の参加が多く好評であった。一方で、高波により実施内容に影響がある等、セーリング競技ならではの海の厳しさを体験する機会となった。このような教訓を生かし、今後に繋げていくべき課題が明らかになった。 ・江の島が会場となるセーリング競技のチラシ（2種）を今回初めて作成して全戸配布し、セーリング競技の見どころや地元の選手を紹介する等、競技種目の普及啓発を図った。この結果、実績のとおり各教室等の増員に繋がった。 ・次のような参加者の声からも、実施の効果が確認できた。 「逗子に住んでいたが、マリンスポーツはやったことがなく、参加して新しい海の楽しみを知った。」 「せっかく海のあるまちに住んでいるのだから、マリンスポーツをやってみなくちゃ。」 「広い海を自由自在に走り回る爽快感。最高でした。」 「今まできっかけがなくてできなかったマリンスポーツ。気軽に体験できて良かったです。」